

補足1 6.2リスク(含、機会)に関して(1/3)

* 「リスク」の定義：不確かさの影響(3.29)

注記1：影響とは、期待されていることから、好ましい方向又は好ましくない方向に乖離することをいう。

注記2：不確かさとは、事象、その結果又はその起こりやすさに関する、情報、理解又は知識に、たとえ部分的にでも不備がある状態をいう。

注記3：リスクは、起こりえる事象及び結果、又はこれらの組合せについて述べることによって、その特徴を示すことが多い。
この国際規格において、RTS関連のリスクは、衝突事故(事象)と死亡と重大な負傷(結果)を指す。

注記4：リスクは、ある事象の結果とその発生の起こりやすさとの組みあわせとして表現されることが多い。

参考) 以上は、ISO31000:2010「リスクマネジメント—原則及び指針」に基づいている。そこでの定義は「目的に対する不確かさの影響」となっている。他のリスク関連書籍では「結果の不確実性」、あるいは「悪い結果が起こる可能性」などの例もある。

⇒定義を難しく捉える必要はなく、通常日本語の感覚で問題無い。
リスクを注記3から拡大して考えることは問題ない(組織の判断)。

* 「機会」は規格では定義されていない。「改善の機会」として使われる。視点の違いでリスクと言ったり機会と言ったりすることもあり、都合よく使えばよい。活動として良かれと思うことはやる方向で取上げることが肝要。

補足1 6.2リスク(含、機会)に関して(2/3)

- * MS全体の中で最も重要な箇所であるが、**手法に振り回されない**ように注意し、効率的な決定方法であることが望ましい。
- * 「リスク」は必要な程度、望む程度の範囲で、適切にかつ極力、「**漏れなく**」決めなければならない。
- * 規格の中で、リスクを決める前提となっている事項
 - ① (4.1) 外部・内部の課題への対応
 - ② (4.2) 利害関係者の要求事項と法的要求事項への対応
 - ③ 目標の実現、望ましくない影響の排除、及び継続的改善の達成
 - ④ RTSパフォーマンスのレビューの結果の反映これらを考慮しつつ、「リスク」を決める。
- * **リスクの決め方**について
 - ・ リスクの程度を定量化(ex.60点以上がリスク)するような手法が必須ではない。ただ、一人の担当者が、思いつきで決めてしまうことは適切でない。
 - ・ 決めるための何らかの仕組みが必要であり、管理者の判断も必要になろう。
 - ・ 全社的な見方と機能別、事業プロセス別、部署別の見方の両方が必要である。
 - ・ 一般的には、リスクの大小は「**発生頻度**」と「**影響の大きさ**」で判断される。

補足1 6.2リスク(含、機会)に関して(3/3)

* 附属書A6.2に示された**リスクの例**(下記)は、一般企業にはなじみにくいかもしいが、参考にはできる。

- ・ 高齢利用者の割合が高い
- ・ 自動車を使用する人と使用しない人の混在
- ・ 主要道路での交通量が多い
- ・ 時間どおりの納入に対する顧客からの厳しい要求
- ・ 異なる地域での道路安全活動
- ・ 主要な安全規則の順守活動のレベル
- ・ 道路インフラストラクチャー、保有車両及び救急医療システムの質

* 実施すべき事項から頭の中で遡って考えることも活動の抜け防止には有効。
リスク⇒実施事項 & 実施事項⇒リスク

* 実施事項には一般に「**維持管理活動**」と「**改善活動**」がある。
両方共、マネジメントシステムの中で取扱われることが望ましい。

* 「組織の課題」、「リスクの特定」、「PF」の一連の要求事項は、各々独立して構築するというより、**同じまな板の上**で議論した方が良いかもしれない。

補足2 6.4注記「RTS目標の階層」とは。

* 下図が一般企業でも参考になる。

(この図はCD3まで附属書にあった。DISから削除。A.6.4に近似した説明あり。
附属書Bの図B.1の三角形上部はこれと同じであり、B.3にはその説明文がある。)



ニュージーランド（国家）のRTS目標の階層

- ◆ 全体的な目標は、交通事故の社会・経済的コストを削減することである。
- ◆ 2層目の目標は、死者・重傷者数に一定の削減を求めることである。
- ◆ 3層目の目標は、2層目の最終成果に繋がるパフォーマンス指標を減少させることである。（速度、飲酒運転、シートベルト装着率を含む）
- ◆ 4層目の目標は、3層目の目標を達成するために行われる取締りのような、制度上の執行

参考)
6.4
注記
表現

CD1、CD2、CD3	「Annex A provides an example of a RTS target hierarchy.」
DIS、FDIS、IS	「A.6.3 provides an example of an RTS target hierarchy.」